

ネパールで考えたこと

T,Ngt

2007年に正月休みにネパールに行ってきました。アンナプルナー一周のちょうど半分の行程でした。具体的には、ポカラまでバス、ポカラから車でベニまで行き、そこから約7日ばかりのトレッキングでムクティナートまで行き、時間切れで、飛行場のあるジョムソンに引き返し飛行機でポカラ、ポカラからバスでカトマドゥの旅でした。10年ほど前からネパールには何度も行っており、おそらく、7回目ぐらいの訪問だったでしょうか。最近の変化には驚かされます。標高はベニ817Mから始まり、ムクティナートは3798Mです。カリ・ガンダキ川をさかのぼる道で、途中にダウラギリが見えます。当然山道です。登山道ではなく、トレッキングの道ですが、カリ・ガンダキを眼下に歩くのでさえ恐怖を感じるような部分もありました。ところが、全コースに車道を建設中でした。すでに、2012Mガーサからジョムソンまでは車道が完成しており、トレッカーは希望すればバイクの荷台に乗せてもらって行くことができます。この道路建設については村中賛否両論でした。ホテルを経営して観光で生計を立てている家は反対です。どうしてかという、道路ができる誰もバスが通っている道を歩こうというようなトレッカーは来ないことはすぐ分かります。実際、白人のトゥッカーに途中であったのですが、単に「ハイ」と挨拶しただけなのに、彼は「どうして道路を作るのか。前に来た時には楽しく歩けたのに。こんな道を作ると環境が壊される」と向こうから話しかけてきました。憤懣やるかたなく、誰かに不満をぶちまけたかったのでしょうか。また、カトマドゥの中級ホテル「サンセットビュー」の主人、確かトラチャンという名前だったように覚えています。ダウラギリが間近に見える故郷にホテルを建てて住んでいました。若い頃、日本に出稼ぎに行き、金を貯めて帰国し、そのお金で最初は二部屋ぐらいのゲストハウスから始め、今では大ホテルの経営者、立身出世の人です。もう、空気の悪いカトマドゥはいやで、日本人の奥さんに「サンセットビュー」を任せて、自分は空気の良い故郷で老後を送っていました。彼のホテルに泊まったのですが、彼も当然昔をそのまま保持したいという意見でした。しかし、賛成する人がいるのも事実です。日本人が林檎の作り方を現地の農家に教えて、途中の村トクチェはアップル・ブランディの産地として有名です。道路ができると農作物を町に出荷できて生活が豊かになる、町から今より安く品物が入る等、生活状況が良くなることはあると思います。事実、若い男が母親と思われる老婆を背中に背負って歩いているのに出くわしました。おそらく、町の病院に運んでいるのでしょう。どこの村からかは分かりませんが、最も遠い村からだとも10日ほど町までかかります。楽な生活を求めると道路ができただけの方が便利になります。日本もこのように進歩し、現在のような生活になったのでしょうか。私にとってネパールは山登りに来るだけのところで、美しい自然を残してほしいというのは当然のことですが、現地の人々の生活を考えると、どうするのが一番いいのかなと迷ったのを覚えています。今はもう道路は完成しているでしょう。計画だと、ムクティナートからさらに先、全一周道路が完成する予定です。

アンナプルナーベースまでは8年程間をあけて2度程行きましたが、氷河の後退には驚かせられました。昔、氷河があったところが無いのです。地球温暖化の影響だと思います。

その後、2008年末から2009年初めにかけ訪れましたが、王政が倒れて、毛沢東一派が実権を握っていました。2007年当時毛沢東一派がどうだったかを書きます。道路を作っているのも、当然労務者として村の農民を雇っています。ある日歩き終えて宿を決めて休んでいると、20人ほどの者が3派に分かれて討議をしていました。1派は政府の役人、1派は毛沢東一派、1派は村人です。毛沢東一派が役人に村人の賃金を上げるように交渉していたのです。役人はカトマドゥに電話をかけて話をまとめていました。このように、村人にとって毛沢東一派は生活向上を助けてくれる良い人、しかし、そんなに簡単にはいきません。ガイドによると、毛沢東一派は村に来て、兵士を募り、拒否すると殺される。また、彼等は生産活動に従事していなく、闘争を継続していく必要があるため、村に来ると、食料をかささらっていく悪い人です。2008年末から2009年初めにかけたの訪門は短期間だったし、政権交代した間際だったので、まだどうなるかは未知の状況でした。どうなるかはこれからだと思います。